

認知症高齢者に運転支援を行い運転卒業に至った1症例

桔梗ヶ原病院 認知症疾患医療センター
園原 和樹

【症例】症例は85歳、男性。免許更新時の認知機能検査で認知症が疑われ、202X年2月に当院認知症疾患医療センターを受診した。軽度認知機能障害（アルツハイマー型認知症初期）と診断されたが、認知機能検査でMMSE23点、HDS-R21点と明らかな認知機能の低下なく、日常生活は自立していたため、運転継続が可能と判断した。その後、ドネペジル塩酸塩を服用としたが、緩徐な認知機能低下の進行を認めた。経過中に自動車事故はなかったが、同居家族による運転が可能であることが確認され、202X+1年8月に免許自主返納となった。

【結語】交通機関の発達していない長野県において、自動車運転は移動するための手段であると同時に、住み慣れた場所で生活するための手段となる。認知機能の低下のある高齢者に対する運転支援は、（1）認知症の診断、（2）運転の可否判断を行うと共に、（3）免許返納後の生活支援を行うことが重要である。